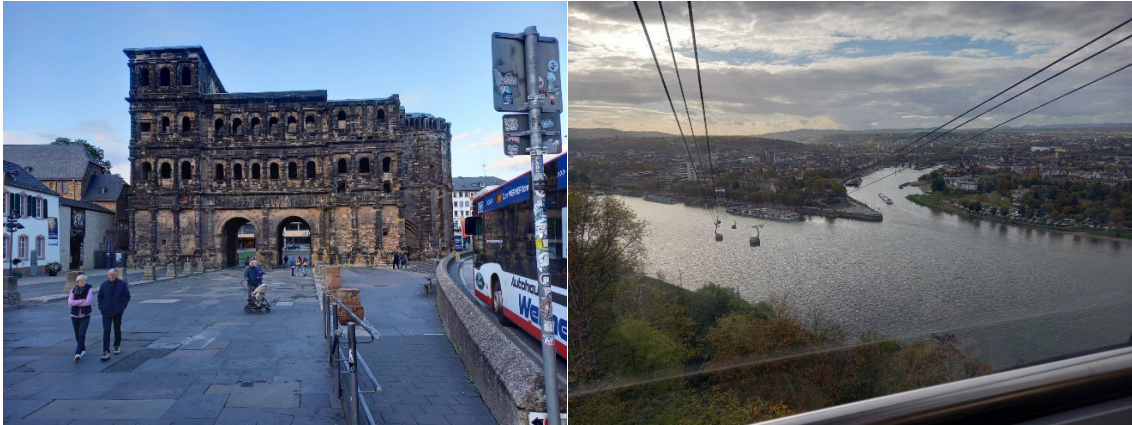


## 第1回留学レポート（ドイツ・トリア大学）

法文学部社会文化学科 3年 新田欧介

### ○日本出発からトリアの学生寮到着まで

9月26日の午前成田空港を出発し、ドイツのフランクフルト空港に着いたのは午後4時過ぎだった。入国審査と地下鉄を拙い英語とドイツ語でなんとかクリアして、フランクフルト中央駅近くのホテルで一泊した。2日後にトリア中央駅まで日本学専攻の学生に迎えに来てもらって、生活に必要なものの買い出しや大学でのレジストレーションを済ませ、ドイツでの生活を開始した。



左) トリアのシンボル Porta Nigra 右) モーゼル川とライン川が合流する Koblenz の風景

### ○授業開始と困ったこと

留学生対象の授業が始まったのはトリアに着いてから1週間後の10月4日だった。クラスはドイツ語の習熟度によって分けられ、3週間ほど実施された。自分のクラスでは先生の説明が英語7割、ドイツ語3割くらいで進められたため、さほど難しさは感じなかった。大変だったのは少々難しい用語が出てくる住民登録や授業登録の説明で、英語が得意な日本人に助けられながら自分のすべきことを理解していった。また、こちらに着いてから以前まで使用していたPCのメールアドレスがロックされ、使えなくなってしまったときはかなり焦った。

### ○トリア市内の様子や旅行

大学のあるトリアはドイツ西部のラインラント＝プファルツ州に属する比較的のどかな町である。市の中心には約2000年前のローマ帝国時代から残る Porta Nigra（黒い門）やカール・マルクスの生家があり、多くの店がこの近辺に集中していることもあって休日は多くの人で賑わう。市内の散策に関しては有り余る自由時間を充てれば十分に回れると考えているので、飽きないようにゆっくり楽しみたいと思う。レストランもたくさんあるが、基本的に料理の量が日本より多いので注文は慎重にしなければならない。

ドイツに住む大学生には日本にはない優遇がある。その一つが大学の近隣区間の交通料金が無料になることである。具体的に言えば、北は Koblenz、南は Saarbrücken（ザールラント州の州都）、西は ルクセンブルクといった100 km圏内の町であれば、学生証さえあれば電車やバスに乗っても一銭も払う必要がない。そのため、休日には2時間以内で行けるこれらの町へ行ったり、そこを足掛かりにして Köln や Frankfurt といった見どころの多い都市へ赴いたりすることもできる。私は節約したいの

で今のところ Koblenz とルクセンブルクにしか行っていないが、まとまった時間が取ればより遠くの町へ行ってみたいと考えている。



左) Koblenz のヴィルヘルム 1 世像 中央) トリアのカール・マルクス像  
右) ルクセンブルクの歩道橋 (自転車が尋常じゃない速さで追い越してくるので要注意)  
○様々な人々とのコミュニケーションと幾つかの気づき

トリア大学では大学のインターナショナルセンターが留学生対象にトリア市内や隣国のルクセンブルクへのツアーを企画してくれたので、それに参加する中で国籍を問わず友達を作ることができた。それに加えて日本学専攻の学生が日本人留学生と新入生を含めた飲み会を開催してくれたので、ドイツ人のタンデムパートナー (お互いの言語を教え合う仲間) も見つけることができた。

こちらに来てから一番衝撃的だったのはどこを歩いてもタバコと香水の匂いがすることで、どちらも苦手な自分にとっては慣れるのに時間がかかりそうである。また、ドイツ西部の辺境の町でありながらも、多くの外国人の姿を見かけるのは日本との大きな違いだと思う。言葉の壁や文化の違いを日々感じ、会いたい人に会えない環境は日本への郷愁を決して忘れさせてはくれない。ただ、周りのすべてが教材や教師といえる空間での生活は自分にとってかけがえのないものだと思じ、大切に毎日を生きたいと思う。



左) ドイツ料理の Schnitzel 右) 大学図書館に展示してあるブックアートの一部 (ドイツで最近見かける雑誌の表紙はプーチン大統領を風刺したものが多い気がする)